

新市長誕生に市民パワー炸裂

交野市長選

9月4日投票の交野市長選に無所属の山本景氏(42)が初当選した。前市長の黒田氏(53)は3期目を目指し、自公民の支援を受け、他市や国から議員が応援に駆け付けた。一方、山本氏には与野党を超えた市民がマイクを握り熱弁した。

黒田氏は子育て世代の流入や待機児童の解消、子ども医療費の助成対象拡充などを強調。山本氏はコミュニティバスの拡充や小中一貫校の整備中止、市役所庁舎は移転せずに耐震化するなど訴え



新市長の挨拶に集まった有権者

を拒否して市民の声を無視した」(70代女性)

また「市政の主役は市民。暮らしへのニーズは多様で、国政より府政より市政により求められる。市長は市民ひとりひとりの声に耳を傾けなければならぬ。政党という箱で市民の声を押し潰してはならない。今回、子育て世代の方や女性の活躍がめざましかった。何かが彼女たちを目覚めさせた。このまちは変わるんじゃないかな。そう思わせてくれる選挙だった。政党や所属団体の区別なく、市民が

主役になって交野のまちを良くしたい。勝ち負けがつかないと言って、分断ではなく、協調の道をみんなで行きたい」(50代男性)

との感想があった。今回の選挙戦中、市民の声を肌で感じ取っていたという山本新市長は「私が勝ったというよりは市民が勝った。市民の皆さんに約束したことを話し合いながらひとつひとつ解決し進めていきたい」と交野市民への第一声を発した。

選挙後の市民からは「前市長はゆうゆうバスを廃止したが、交野市は坂道が多くタクシーも少ないので高齢者は病院へ行くのも困っているし、小中一貫校建設計画の住民投票署名用紙の受け取り

今回の交野市長選挙の投票率は49・36%(前回46・99%)、当日有権者数は6万4247人だった。